

教科「国語」シラバス

1. 学習の到達目標と評価の観点

(教科名) 国語 (科目) 国語Ⅱ	週の授業数	学科・学年・学級	使用教科書と補助教材
	2	中学 第1学年	『的確につかむ 文法の学習』浜島書店 『基礎から学ぶ書く力 ロジカル国語表現Ⅱ』 好学出版 ※スタディサプリ通年講座「中2 国語(光村図書 国語)」の「文法基礎(1)(2)」で、言葉の単位と自立語について扱いあり。
学習の到達目標	①日本語についての文法を学び、その知識を活かして言語を正確に用いることができる(知識・技能) ②正しい日本語を身につけることで、言葉を通した自己表現力を高める(思考力・判断力・表現力) ③他者との対話のなかで、他者の考えを論理的に把握できるようになる(主体性・多様性・共同性)		
評価の観点	現代日本語についての文法事項を習得し、それらを文脈の中で活用する力を身につけている。《知識・技能》		
	日常生活で使用している日本語に対する理解を深め、言葉を正確に使うことで自己の表現力を磨く。また、他者との対話や議論を通して、自己の考えを表現する力を身につけている。《思考力・判断力・表現力》		
	自らの力で主体的に読み解き、本文の内容を正確に把握する力や、他者との対話や議論を通して、他者の考えに共感する力を身につけている。《主体性・多様性・共同性》		

【定期考査における観点別評価について】
年間5回の定期考査において、各回とも問題ごとに《知識・技能》《思考力・判断力・表現力》《主体性・多様性・共同性》の3観点における評価を行い、点数化し、評定算出の基本資料とする。

【点数化が難しい科目や課題について】
A : 「十分満足できる」状況と判断されるもの……………100%
B : 「おおむね満足できる」状況と判断されるもの……… 80%
C : 「努力を要する」状況と判断されるもの…………… 60%
D : 未提出、未実施…………… 0%

2. 学習計画及び評価方法等

※教育的効果を考え、事前に生徒に説明した上、扱う教材・内容を変更することもある。

	単元	学習のねらい	学習のポイント、使用教材等
1 学期 中間 考 査 ま で	①言葉の単位（教科書） 1 文章・段落 2 文・文節・単語 ②文節の働き（教科書） 3 主語・述語 4 修飾語 ----- ③言葉の使い方・文の組み立て （ロジカル）	①②文法学習の基礎知識を習得する。特に、後の学習につながる「文節」と「単語」については、それぞれの違いが分かるようになることを目標に、しっかり整理しながら学習する。 ③仮名遣や誤字などに注意して、文章表現の基礎を学習する。	使用教材 ①②『的確につかむ 文法の学習』 ③『基礎から学ぶ書く力 ロジカル国語表現Ⅱ』 《補足》 平常点課題として、読書を課す。
1 学期 期 末 考 査 ま で	①文節の働き（教科書） 5 接続語・独立語 6 連文節 7 並立の関係・補助の関係 ②文の組み立て（教科書） 8 文の成分・組み立て 9 指示する語句・接続する語句 ----- ③論理の仕組み①（ロジカル） 接続語の働き・因果関係	①文の組み立てを理解し、主語・述語を見極められるようになることで、読解力向上へとつなげていく。 ②接続語が論理を導いていくことを理解し、適切に使えるようにする。 ③接続語を使いこなし、文章中での機能を理解する。	使用教材 ①②『的確につかむ 文法の学習』 ③『基礎から学ぶ書く力 ロジカル国語表現Ⅱ』
2 学期 中 間 考 査 ま で	①自立語と付属語（教科書） ②活用 ③品詞 ④名詞 ----- ⑤論理の仕組み②（ロジカル） 具体と抽象・対比	①～④ *自立語と付属語、活用、品詞について、それらの概念を理解する。 *体言と用言について、主語と述語からなる短文を作りながら、識別ができる。 ⑤これまでの学びを、文章理解において応用する。	使用教材 ①～④『的確につかむ 文法の学習』 ⑤『基礎から学ぶ書く力 ロジカル国語表現Ⅱ』
2 学期 期 末 考 査 ま で	①動詞の活用 *正格活用と音便 *変格活用 ----- ②文章の構成（ロジカル） ③論理の利用①（ロジカル） 説得力のある文章を書く ～根拠・具体例	①*動詞の活用の種類を学ぶ。また、それぞれの活用の仕方を覚え、動詞を自在に活用させ、活用の種類を見極めることができる。 *基本形・活用形・活用の種類などの用語の意味を押さえ、設問に対しての適切な答え方を身につける。 *例語を自分で探し、日本語の豊かさにもふれる。 ②文章の構成を学び、論理展開の在り方を知る。 ③客観的な意見を書く訓練を積む。	使用教材 ①『的確につかむ 文法の学習』 ②③『基礎から学ぶ書く力 ロジカル国語表現Ⅱ』
3 学期 期 末 考 査 ま で	①形容詞の活用 ②形容動詞の活用 ③古文の読み方	①②形容詞・形容動詞について、活用の仕方を学ぶ。そのうえで、形容詞・形容動詞を自在に活用させることができる。 ③古典の原文にふれ、日本語の豊かさを味わう。 古典の鑑賞を通し、現代にもつながるものの見方や感じ方、読み継がれてきた意	使用教材 ①②③ 『的確につかむ 文法の学習』 『国語Ⅰ』（国語Ⅰの教科書） ④『基礎から学ぶ書く力 ロジカル国語表現Ⅱ』

未 考 査 ま で	④論理の利用②（ロジカル） 説得力のある文章を書く ～対比・反論	味など考える。 ④これまでの学習を活かし、文章を論理的に構成・理解する。	
-----------------------	--	---	--

【成績評価の概要について】	
(1) 1 学期における評価の対象（国語Ⅱ） ① 中間考査：100点（知識・技能や、思考力・表現力の評価） ② 期末考査：100点（知識・技能や、思考力・表現力の評価） ③ 授業内課題の提出や、授業への取り組み姿勢などの平常点：40点（関心・意欲・態度などの評価） (2) 学期評定の算出方法 ① 国語Ⅰと合算し、評定を算出する。 ② 国語Ⅰも、(1)の①と②は同様であるが、③は60点である（週あたりの授業時間が国語Ⅰが3時間、国語Ⅱが2時間であるため）。 ③ 国語Ⅰと国語Ⅱの定期考査の素点合計400点に対し、平常点合計は100点とし（素点：平常点＝8：2）、多面的評価を行う。 (3) 年度末評定の算出方法 ① 国語Ⅰと合算し、評定を算出する。 ② 国語Ⅰも、(1)の①と②は同様であるが、③は60点である（週あたりの授業時間が国語Ⅰが3時間、国語Ⅱが2時間であるため）。 ③ 国語Ⅰと国語Ⅱの定期考査の素点合計1000点に対し、平常点合計は250点とし（素点：平常点＝8：2）、多面的評価を行う。	